

いま蘇る皇室のかほり...

国指定重要文化財◆日本の歴史公園100選

Nikko Tamozawa Imperial Villa

日光田母沢御用邸記念公園

～次代に伝える技と伝統、そして文化～

旧日光田母沢御用邸は、明治32年（1899年）に嘉仁親王（大正天皇）のご静養のために造営され、昭和22年（1947年）に廃止されるまでの間、三代にわたる天皇・皇太子がご利用になりました。

明治期に造営された御用邸の中でも最大規模の木造建築で、本邸が現存する唯一の建物です。江戸・明治・大正と三時代の建築様式をもつ集合建築群で、これらの建物の併用が当時から存在したかのように建てられているところに大きな特徴があり、当時の建築技術や皇室文化を垣間見ることができます。

戦後、博物館や宿泊施設、研修施設として使用された後、栃木県により3年の歳月をかけて修復・整備され、平成12年（2000年）に記念公園として蘇りました。平成15年（2003年）に貴重な建造物として「国の重要文化財」に指定され、平成19年（2007年）には「日本の歴史公園100選」に選定されました。

四季折々の風情ある庭園と日光田母沢御用邸の100余年にも及ぶ荘厳な趣きを是非ご堪能ください。

インフォメーション

開園時間：4月～10月

9:00～17:00(受付は16:00まで)

11月～3月

9:00～16:30(受付は16:00まで)

入園料：大人・高校生 500円

小・中学生 250円

必見その1) 平成の工事関係者が「木材の宝石箱」と呼んだ謁見所



謁見所は公的な役割を持った部屋です。大正天皇ご即位後、御用邸での公式儀礼などが増えたことから建築されました。柱・格天井・造作材等には全て、御料林から伐り出された、尾州檜（木曾檜のこと）の中でも最高の木材が用いられ、最高の技術を用いて造られています。床柱は糸柱の四方柱、違い棚の棚板は檜の玉木材、また、最高の錆金物（釘隠し、引手など）も使われています。

必見その2) 江戸・明治・大正時代における最高の建築技術を堪能



御車寄（明治時代）

明治22年造営の東宮御所の玄関でしたが、御用邸造営時に移築されました。



御玉突所（大正時代）

四ツ玉と呼ばれるポケットのないビリヤード台。床板は檜の板目・柱目の寄せ木板です。



御学問所（江戸時代）

紀州徳川家江戸中屋敷時代には「梅の間」と呼ばれていました。



皇后宮（明治時代）

貞明皇后の御座所等があります。現在の天皇陛下が昭和19年7月から1年間疎開生活を送られた所でもあります。

必見その3) 四季折々に趣のある表情を見せる庭園



自然の地形を最大限に活かして造られた南側庭園では、春は県花の赤白のヤシオツツジ、樹齢400年と云われるシダレザクラが庭園を彩ります。また、夏にはヤマユリの香りが庭園・邸内に広がります。

秋を迎えると、明らかに紅葉時の配色を考えて植えられたと思われる、カエデを中心とした木々の錦繡な紅葉が、訪れる人の目を楽しませてくれます。